

救急医療における死亡告知と家族・遺族ケア ～交通事故で受傷し、同時に遺族となった患者の事例を通して～

中西 健二（三重大学医学部附属病院・医療福祉支援センター 臨床心理士）

警察庁の発表によると、平成25年の交通事故死者数（24時間以内）は4,373人であり、車両の安全性向上やシートベルト着用率の増加、救急医療体制の充実などに伴い、13年連続で減少している¹⁾。とは言え、この数字は平均すると日本において約2時間に一人が交通事故で亡くなっていることを意味しており、個々の交通事故死においては突然の予期せぬ死別に戸惑い、悲しむ遺族が存在する。つい昨日まで元気であった大切な人が亡くなったと突然告げられることは、遺族に大きな衝撃を与え、パニックや混乱、茫然自失といった心理的混乱を生じさせる。さらに、告知が不適切に行われると、遺族の心理的混乱はさらに増大し、告知自体がトラウマ体験になりうるとの指摘もある²⁾。

そこで今回、交通事故で受傷し、同時に遺族となった患者へ死亡告知が行われた二つの事例をもとに、ともに遺族でもある患者ならびに患者家族への心理的支援・悲嘆ケアのあり方について検討したい。なお、検討ポイントとして、文献で指摘されている問題点³⁾や、各事例の対応において医療スタッフが考慮した点および困難に感じた点などを以下に記す。

① 患者（遺族）サイドの問題

- ・ 患者は身体的外傷を負っていることに加え、事故の恐怖体験による精神的な外傷を負っている可能性もある。
- ・ 「いつ、故人の死を伝えるか？」 怪我の回復が十分でない場合や、頭部外傷による認知機能障害がある場合、どのタイミングが適切か？
- ・ 「誰が、故人の死を伝えるか？」 故人が他の医療機関で死亡確認されている場合、患者が入院している医療機関のスタッフは、故人の死亡状況について詳しい情報を持っていない。そうした場合、誰が患者へ説明するのが適切か？
- ・ 「どのように、故人の死を伝えるか？」 故人の死を伝える際、どのような配慮が必要か？
- ・ 患者が子どもである場合、故人の死を伝える際に配慮すべきことは？
- ・ 患者以外の家族が全員亡くなっている場合、故人の死を伝える際に配慮すべきことは？
- ・ 患者は「自分だけ生き残ったことへの罪悪感（サバイバーズギルト）」を抱えるかもしれない。事故の原因が患者の不注意にあった場合や、少なくとも患者が「責任の一端は自分にある」と感じている場合、そうした罪悪感はさらに強くなることが予想される。

② 患者家族（遺族）サイドの問題

- ・ 家族も大切な人を突然亡くした悲嘆の中にあり、同時に怪我を負った患者を支える立場にもある。
- ・ 「患者から故人について尋ねられるのではないかな？ 尋ねられた際、どう返答すればよいか？」という不安を抱えながら患者と接している。
- ・ 故人の死を患者に伏せている、あるいは偽りの説明（例、「治療中であるため面会に来られない」）をしている場合、そのことに対する罪悪感を抱えることになる。

- ・ 「患者に故人の死を知らせることで、患者にショックを与えてしまうのではないか？ さらに、そのことが怪我の回復に悪影響を及ぼすのではないか？」といった懸念がある。
- ・ 「故人の死を伝えた後、患者をどのように支えたらよいかわからない」という不安を抱えている。

③ 医療者サイドの問題

- ・ 家族が「故人の死は患者には伏せて欲しい」あるいは「知らせるのはまだ先にして欲しい」と希望している場合、医療者も「患者から故人について尋ねられるのではないか？ 尋ねられた際、どう返答すればよいか？」という不安を抱えることになる。特に、看護師は患者との接触が多いため、こうした不安は切実なものとなる。
- ・ 患者に隠し事をしている、あるいは偽りの説明を行っていることが、患者との信頼関係に悪影響を及ぼすことへの懸念がある。例えば、後になって故人の死を知った患者から、死の事実を知っているながらそれを伏せていた医療者に対して不信感や怒りが向けられ、ひいては必要な治療や看護にも悪影響が出ることへの懸念がある。
- ・ 「死の事実を伏せて欲しい」という家族の意向と、患者の知る権利との間で、医療者が板挟みとなり、そうしたストレスから医療者が家族に対して陰性感情を抱く可能性もある。
- ・ 故人の死を知った後、患者がどういった反応を示すのか、また医療者としてどのように支援すればよいのかがわからないことへの不安がある。
- ・ 患者および家族対応について、院内のどのようなスタッフに相談すればよいのかがよくわからない。

<引用文献>

- 1) 警察庁交通局交通企画課 2014 「平成 25 年中の交通事故死者数について」 警察庁統計 Homepage (<https://www.npa.go.jp/toukei/index.htm>)
- 2) 中島聡美・柳田多美 2006 突然の死の告知 金吉晴(編) 心的トラウマの理解とケア 第2版 じほう pp.265-276.
- 3) Watson, L. A. 2008 Informing critical care patients of a loved one's death. *Critical Care Nurse*, **28**, 52-63.